

タウンウォッチングの実施について

タウンウォッチング（まち歩き点検調査）の目的

タウンウォッチングとは、高齢者や障がい者など、日常生活においてバリア（障壁）を感じている人々の参加により、駅や公共施設等の多くの人々が利用する施設及びその周辺の道路等でバリアとなっている場所について、実際にまちを歩いて点検することです。また、タウンウォッチングで指摘された問題点については、ワークショップという形式によりグループに分かれて意見交換を行い、バリアフリー上の課題や整備要望として取りまとめ、基本構想に反映させることを目的とします。

タウンウォッチングの実施場所

重点整備地区候補地である堅下駅・法善寺駅周辺地区でタウンウォッチングを行います。

主な調査施設：近鉄堅下駅、近鉄法善寺駅、市立柏原病院、健康福祉センター、ほのぼのかたしも、堅下合同会館

主な調査経路：上記の主要な施設を結ぶ経路など

実施予定時期：平成 30 年 6 月 8 日

タウンウォッチングの参加者

タウンウォッチングの参加者は、次の方々へ参加を求めます。

- ・車いす使用者（付き添いつき）
- ・白杖利用者
- ・乳幼児連れ
- ・聴覚障がい者（手話ボランティア）
- ・精神、知的障がい者
- ・高齢者（健常者）
- ・地元自治会代表者
- ・策定協議会委員
など

タウンウォッチングの流れ

タウンウォッチング当日の流れを次に示します。

手順 1	調査方法などの説明 ・重点整備地区（候補地）の説明 ・タウンウォッチングの調査方法の説明
手順 2	タウンウォッチング（まち歩き点検）調査 ・グループごとに、あらかじめ想定したルート（駅や公共施設、周辺道路）を点検し、チェックシートに問題点を記入
手順 3	意見交換 ・グループごとに大判の地図を用いて、タウンウォッチングで気付いた問題点や整備提案、改善要望などをふせんに書き込み貼り付ける。
手順 4	班ごとに発表 ・各グループの代表者による発表（各グループ 5 分程度） ・講評

タウンウォッチング調査の方法

- ・現地で気付いた問題点や改善要望等をチェックシートに書き込む。
- ・可能な限り自力で移動するものとし、スタッフは安全管理を重点的に行い、必要に応じて補佐をする。
- ・介助が必要な者に対しては、マンツーマンでスタッフが傍につく。
- ・チェックシートへの記入が困難な場合には、スタッフが意見を聞き取り、代わりにチェックシートへの記入を行う。



ワークショップ形式による調査結果のまとめ方法

現地調査終了後、集会所などにて班ごとにワークショップ形式で参加者による意見交換とともに、調査結果を取りまとめを行います。

[バリアフリーマップ作成]

- ・チェックシートに記載した内容を付箋に転記し、大判の地図に貼り付ける。(黄色ふせん)
- ・グループリーダーの主導のもと、地図上に張られた付箋に基づき、なぜ問題になのか、どうすれば改善されるのかといった内容について話し合いながら、参加者の意見を共有する。

[問題点・改善要望等の取りまとめ]

バリアフリーマップを用いて意見交換を行い、模造紙に次の内容を取りまとめる。

- ・調査箇所ごとの問題点の取りまとめ
- ・問題点の解消に向けた改善策の提案(青色ふせん)

[発表及び講評]

- ・各グループでまとめた内容を発表する。
(1班5分程度)
- ・各班の発表終了後、講評を行う。

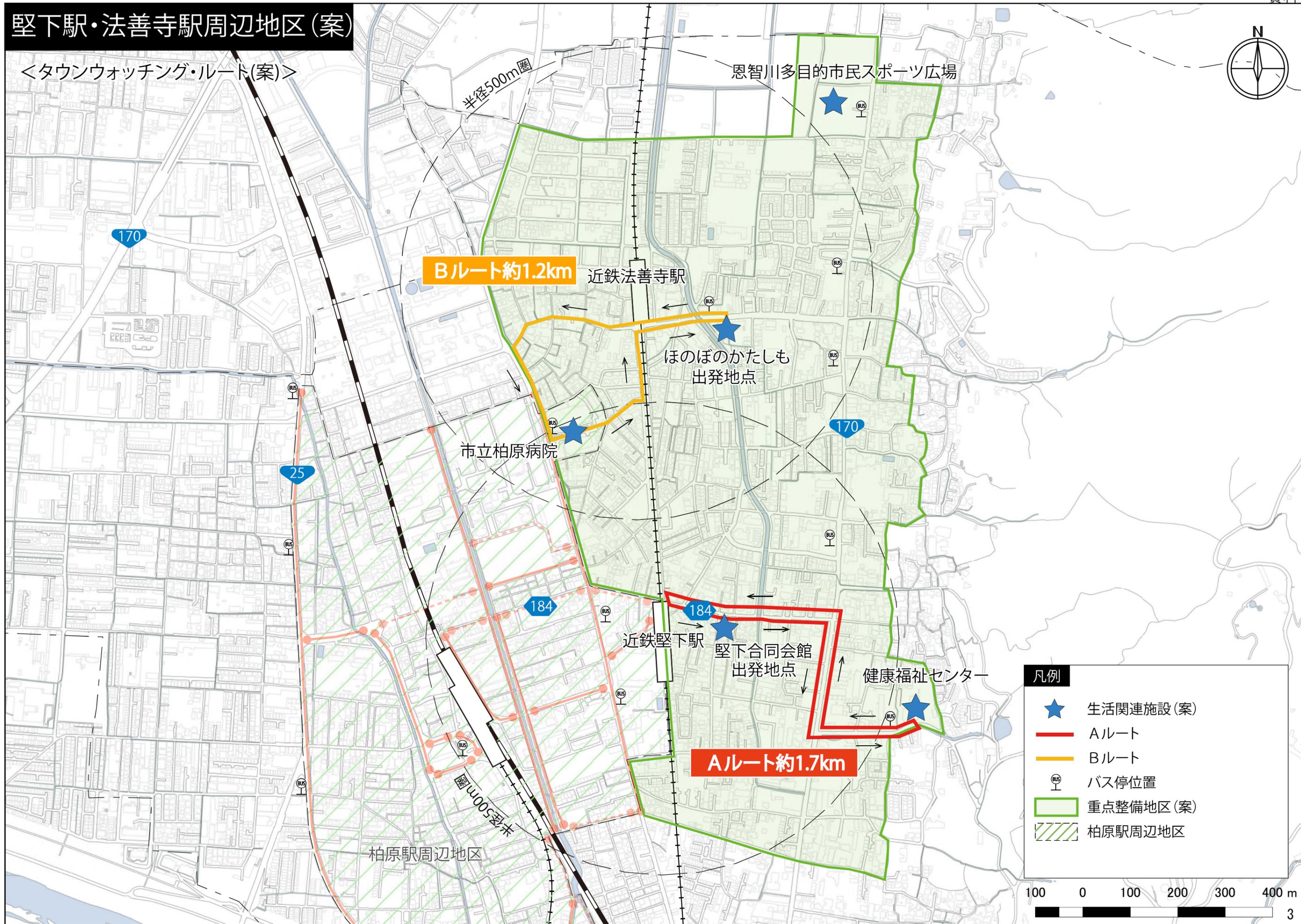


タウンウォッチングルート

堅下合同会館・ほのぼのかたしもを拠点として、2つの班に分かれ、それぞれのルートの施設および経路について、バリアフリー上の問題点等の点検を行います。(次頁の通り)

堅下駅・法善寺駅周辺地区(案)

<タウンウォッチング・ルート(案)>



凡例

- ★ 生活関連施設(案)
- Aルート
- Bルート
- ⊕ バス停位置
- 重点整備地区(案)
- 柏原駅周辺地区

